

令和6（2024）年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

紫野児童館

		活動名	実施回数	参加人数											内 容	成 果 と 課 題
				乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア			合計		
					自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中高生	大学生	大人			
子ども育成機能	基本活動	(2) 遊びの教室活動														
		あそびの教室「外あそび、室内あそび」	1			87		8						95	児童館でのあそびのルール、机の出し方など説明する。	新入会生にとっては、児童館のあそびのルールを知る機会となり、2年生以上にとっては、ルールの再確認ができた。
		あそびの教室「けん玉こま」	1			34								34	上級生の児童が技の披露をしたり、検定の内容受け方の説明をする。	けん玉・こまを得意とする児童に技の披露をしてもらったことで、子どもたちの興味、やる気を引き出すことができた。
		けん玉検定	25		15	94		1						110	5月、3月は週間で行ない、それ以外の月は月末の2日間検定を行う。年度末に級の認定証、挑戦数が多かった児童の表彰を行う。	少しずつ技を習得し級を上げていく児童がいる一方で、一定の級で止まっている児童も多い。技のコツなどは、粘り強く練習をしている子どもも多く見られた。年度末には年間を通して多くチャレンジした子どもに表彰を行った。
		こま検定	25		12	130		4						146		粘り強く練習を続け、段を習得した子どももいた。自分も上の級や段を目指そうと意欲的な子どもも多かった。けん玉検定同様に、年間を通して検定チャレンジ回数上位者には年度末に表彰した。
		あそびの教室「オセロ・マンカラ」	1			31								31	オセロ、マンカラのルール、大会の出場方法を説明する。	全くルールを知らない児童は少ないが、大会に向けて丁寧なルール説明をした。
		オセロ・マンカラ週間	5			79								79	対戦者の名前を記入するカードを用いて、多くの児童同士で対戦できるようにする。	たくさん対戦することで、学年や小学校を超えて、児童の名前を覚えるきっかけにもなった。また、同じ人とばかりではなく多くの子どもたちと対戦する児童が多かった。
		あそびの教室「きりえ」	1		1	27								28	全児童対象にカッターナイフの使い方やきりえの進め方の説明を行う。	1年生は初めての説明、2年生以上もケガのないよう緊張感を持ってきりえに取り組むことにつながった。
		きりえ週間	20		6	220		8						234	7月は1年生は基本の切り方を習得できる簡単な図に挑戦し、他学年は自分のレベルにあった図を選んできりえを作成した。	ほとんどの児童が作品に挑戦し、完成することができた。1月のきりえは作品展に向けてとなるので、難しい図柄に挑戦する児童もいた。遊びたい気持ちが大きく、あえて簡単な図案を選択し、終わらせることを目標としている子どもへの適切な働きかけが必要である。
		あそびの教室「卓球」	1		1	76		11						88	卓球のルールを見やすいように大きなピン球を使って説明する。	基礎的なルールだけの説明でわかりやすく、卓球に挑戦する1年生も多くなる。今後も卓球に親しむ機会を設けていきたい。
		卓球週間	11		7	179	1	14						201	1台で王様形式で進め期間と、2台で試合形式で行なう期間を設ける。	普段、卓球をしない児童も卓球に興味を持ち、挑戦する姿が見られた。
		ガラクタ工作	4			42		7						49	廃材を利用して、自由に工作をする。	廃材からうまれる作品と子どもたちの発想は素晴らしかった。来年度以降も引き続き取り組んでいきたい。
		あそびの教室「かまぼこおとし」	1			64		2						66	かまぼこおとしのルールの説明、大会での注意事項を説明する。	あそびの教室の前に職員でルールの統一を実施し、日常のあそびの中では曖昧になりがちな部分も改めて説明することで、週間につなげられた。
		かまぼこおとし週間	6		6	121		5						132	かまぼこおとし大会に向けて練習をする。	週間中は、多くの児童が「かまぼこおとし」を楽しみ、遊戯室がかまぼこおとしをする児童で埋め尽くされるほどだった。

	あそびの教室「ドッジボール」	1		64	2						66	ドッジボールフェスティバルに向けてドッジボールのルールの説明、確認をする。	基本的なルールに加え、ドッジボールフェスティバル独自のルールを全員で確認する。あそびの中でルールが緩んでいたの で、説明を受けて職員からの注意も入りやすくなった。
	ドッジボール週間	5		235	1	6	1				243	多くの児童が参加できるようにチーム編成を工夫してドッジボールの練習をする。	日によって、男女別や学年別のチーム編成にしたので、新鮮味を味わいながら参加できた。
	(3) 行事活動												
	マンカラ大会	1		1	73	4					78	個人戦で、トーナメント方式で行う。準決勝、決勝は出席児童全員で観戦する。	準決勝、決勝の対戦の様子をスクリーンで映し出すことで、マンカラの強い児童の戦術もよくわかり、関心している児童も多くいた。学校や学年によっては、下校時刻がまちまちで、大会開始時までに入場待ちが揃わないことが課題である。
	子ども夏まつり実行委員会	3		2							2	夏まつりに向けて子どもたちが企画から準備、運営に参画する。	実行委員、学童クラブの3年生と高学年がつくる子どものお店がならんだ。今年度は、他館からの備品を借用することで、例年とはひと味違うコーナーができた。
	子ども夏まつり	1		6	83	14				10	113	夏まつり実行委員会を中心に、準備、店番などをして、夏のイベントとする。	学年ごとに楽しむ側、楽しませる側にわかれて、それぞれが楽しむことができた。また、民生児童委員の協力も得られて実施できた。
	卓球むらさきのカップ	1		5	71	4					80	学年混合のチーム戦で卓球の試合をする。決勝戦は全員で観戦する。	チーム内で声を掛け合ったり、応援する姿が多く見られた。当日に入場券の変更がありチーム編成の変更になるので、締切日を厳守する必要がある。
	おばけやしき実行委員会	4		4	47						51	おばけやしきの内容の話し合い、グッズや看板の制作、当日の役割決めをする。	自分たちでテーマを決めて、テーマにそった道具を作り、おばけやしきに向けての準備を行った。
	おばけやしき	1		8	70	3			1		82	日ごろ実施できない「おばけやしき」を楽しむ。	3年生以上の有志がおばけ役、受付、おたすけ役、景品渡しとしてそれぞれ役割を担い、自分たちで作り上げたおばけやしきとなり、ただ楽しむだけでなく、達成感を味わうこともできた。
	やきいもパーティ	1	12	6	73	2	2		10		105	館のグラウンドで焼いたやきいもを午前中は乳幼児向けに、午後は小学生向けに味わってもらう。	午前中はあそびの広場仕様で自由あそびが主となった。午後は児童が考えた「紙いも探しゲーム」で盛り上がった。外でやきいもとアイスを食べられたことに喜んでた。
	合同遠足「科学センター」	1		17	17						34	リクエストボックスを設置し子どもたちに遠足の行き先の希望を聞き、リクエストの多かった「青少年科学センター」に行く。	児童が行き先決定の投票に参加できて、より楽しみにしていた。館内ではグループ行動にし、各々で時間管理ができていた。また、公共交通機関を利用する際のルールやマナーも守れていた。

子ども育成機能	基本活動	クリスマス会実行委員会	4	1	18							19	クリスマス会に向けての出し物を決めたり、ポスター作りをする。	自分たちで作り上げていく過程を楽しみながら、限られた準備期間の中で協力しあって、クリスマス会に向けて準備を進めることができた。	
		クリスマス会	1	7	63		7		2			79	実行委員や3年生が考えたゲームや職員出し物を楽しんだ後、サンタが登場プレゼントをもらう。	学童クラブの3年生が中心となって、司会やゲームの進行をしてもらった。3年生が前に出て活躍する機会も多く、司会や進行がスムーズにできるようになっている。	
		4施設合同避難訓練	2	5	136	2	19					162	北合同福祉センター全体での避難訓練を実施する。	署員からの講評は「二段階通報の必要性」だった。今後は、二段階通報を実践していきたい。	
		大そうじ	1	2	53		5					60	各部屋、玄関グラウンドを手分けして掃除をする。	くじ引きで担当を決め、エコくらぶで作ったマツイ棒を片手に普段は手の届かない場所も掃除ができた。掃除後はみんなでたこ焼きを食べて慰労会とし、喜んでいた。来館児童の参加もあった。	
		ドッジボール2 days	2	3	51	1	1	2				58	ドッジボールフェスティバルに向けて練習をする。	フェスティバル出場児童、ドッジボールをしたい児童のみで本番さながらの緊張感を持って練習ができ、本番に向けてルールの再確認もすることができた。	
		かまぼこおとし大会	1	1	64		3					68	個人戦で、トーナメント方式でかまぼこおとしを競う。決勝は出席児童全員で観戦する。	大会にエントリーしていた児童はそれなりにいたが、帰ってくるのが遅かったりしてトーナメント表通り順番に進まないことが課題である。また、直前になって欠席したりする児童もいるため、大会開始後に慌ただしくなってしまった。昨年の課題を受け、応援する時のルールも説明した。大会後もかまぼこおとしのブームは続くほど、盛り上がりを見せた。	
		安全の日	11	11	767	3	37					818	緊急時の集合、整列、点呼の後、安全、災害にまつわる話、クイズをする。	昨年度の課題であった、参加を嫌がる児童は今年度は減り、全員参加できることも増えてきた。	
		子どもの居場所を考えるワークショップ	1	1	5							6	「京都市子ども・若者総合計画」策定に関わる子どもたちにとって、よりよい居場所作りのための意見交換会を実施。	参加した子どもたちは、活発に意見を出し合い、また他児の意見を知るいい機会となった。	
		伝統工芸体験「京友禅を楽しもう」	1	1	13	14	2	1		9		5	45	伝統工芸のひとつである「京友禅」体験し、ミニタペストリーを作る。	定員を明確に記載しなかったこと、申込期限を実施日前日までとしたことで、定員を大幅に超過してしまい、前日に各家庭に事情の説明のためにご連絡をした。これらを踏まえ、申し込み締切日を早め、定員になり次第締め切るという一文を入れる。
		ドッジボールむらさきのカップ	1	2	65		1					68	3チームに分かれてドッジボールの対戦する。	チーム内で上級生が下級生を守ったり、励ましあったり協力しながら試合に臨んでいた。	
	(4) クラブ活動														
	エンジョイクラブ	14		1	7	25						33	小学4年以上の登録制クラブ。メンバーで活動内容を決めて、工作やクッキングを行う。	人数は少ないながらも、毎回の活動に積極的に取り組む姿が見られた。しかし、受け身の姿勢が多く、自分たちがもっとこうしたいという思いや意見はあまりないように見受けられた。また近年の課題となっている中高生の参加はなかったが、どのようにつなげていくのかは引き続き課題である。	
	エコクラブ	12	12	865		40						917	主に環境にまつわるクイズ形式の話をする。	エコの日は、エコに関するクイズをすることが子どもたちの間にも浸透していて、クイズの時間を楽しんでいる児童が多くなってきた。	

子ども育成機能	基本活動	(5) 地域間交流															
		北・上京・中京区児童館学童保育所まつり	1	9	26	14	3	2		44			1	99	北・上京・中京区の児童館学童保育所が一堂に集まり、ステージ発表や、コーナーあそびを楽しむ。	あそびのコーナー、体験コーナーなど児童館の中ではできないことを体験することができ、他館との交流も図ることができた。	
		ふれあい卓球大会	1	2	8	11		1		14			1	37	老センの卓球サークルの方、保護者、児童の混合チームを卓球の交流をする。	普段はできない対戦相手とのチーム対抗は、大いに盛り上がった。後日お礼のメッセージを児童が書き、老センで手渡し、喜ばれた。	
		卓球交流会	1		5	4								9	柵野児童館、大宮西野山児童館と混合チームを作り卓球で交流する。	試合の後の交流の時間で多くの児童と対戦ができて、良い刺激をもらえた。	
		ドッジボールフェスティバル	1		1	26								27	1ブロックの児童館学童保育所とのドッジボール交流試合をする。	学年混合でチームを編成し試合に臨む、試合に勝ったことに喜びを全身で表す児童が多く、達成感を味わえた。	
		スマイルフェスタ	1	5	13	15	1	1		31			6	72	老セン、授産所、地域の方、民協と協力をして世代間交流を図る。	盆ダンスサークルとの交流、みんなあそびで交流を深め、地域の方による「南京玉すだれ」と「傘回し」を披露していただいた。また、「南京玉すだれ」を体験できた子どもたちもいた。	
		家族であそぼう「かまぼこおとし」	1	1	8	10				1				20	児童、保護者、職員混合で二人ずつチームを組み、かまぼこおとしをする。	保護者の参加は少なかったが、館で流行っているあそびと一緒に体験し、普段、児童館で遊んでいるあそびに親子でできる良い機会となった。	
		TAMARIBAとの交流事業	2			21		3						24	地域の交流サロン「TAMARIBA」にて、学童クラブ児童がダンスを披露。	ダンスを披露する機会がない中、多くの地域の方にみていただき、子どもたちの自信につながった。	
		鳳徳デイサービスセンターとの交流	2			24		2		25				51	鳳徳デイサービスセンターの利用者と世代間交流を図る。	今年度より交流を開始。ダンスを披露したり、あそびやゲームを通して交流を深めることができた。次年度も引き続き継続していきたい。	
	合 計	182	30	216	4144	23	243	3	137	0	0	23	4819				
	推進活動																
		合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
子ども育成機能 合 計			182	30	216	4144	23	243	3	137	0	0	23	4819			

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。
推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。
指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。